

扱い 新聞 平成25年8月28日付 朝刊
ラジオ・テレビ 平成25年8月27日17時以降

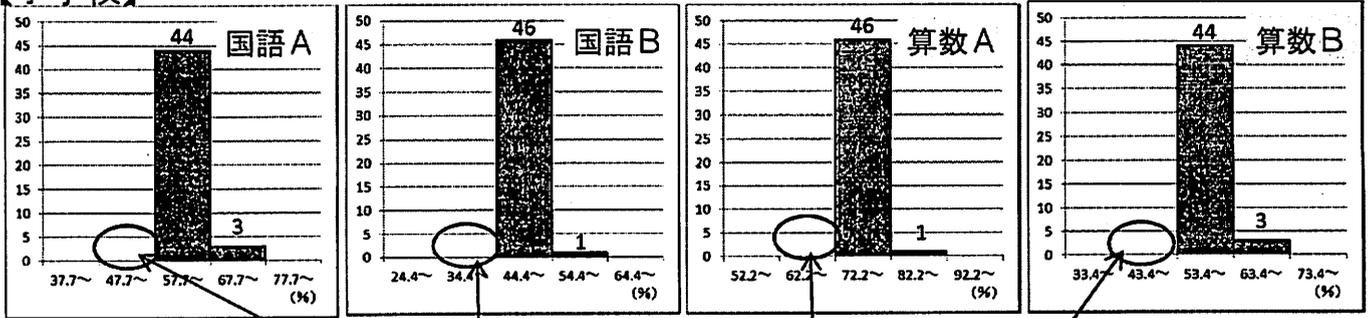
平成25年度全国学力・学習状況調査の結果

都道府県の状況

- 都道府県の状況（公立）について、平均正答率を見ると、最低平均正答率と全国平均との差が縮小傾向にある。
 - また、平均正答率が全国平均の-5%に達しない都道府県が、
小学校では、調査開始以来初めて、全教科でなくなり、
中学校では、調査開始以来初めて、国語Bでなくなっている
（中学校で-5%に達しない都道府県がない教科は初めて）
- など、過去の調査で平均正答率が低かった都道府県について改善傾向が見られており、全体として底上げが図られていると考えられる。

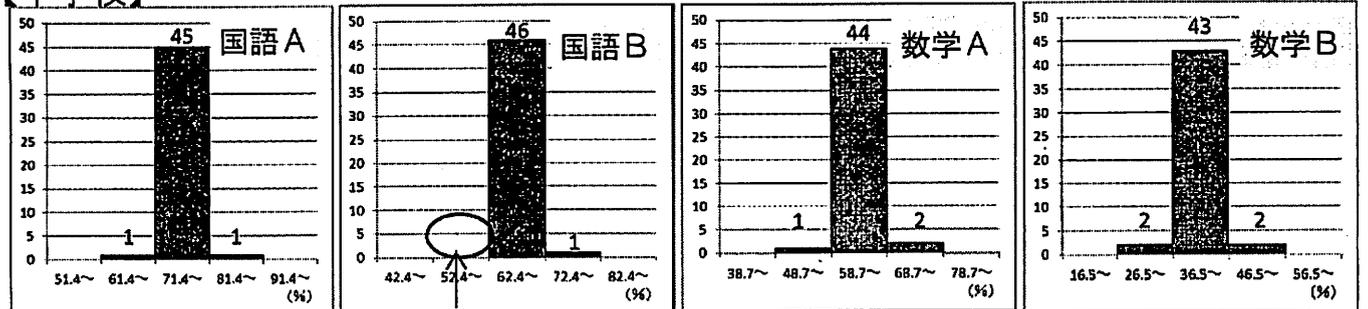
◆ 各都道府県の平均正答率の分布

【小学校】



全国平均の-5%に達しない都道府県が初めて全教科でなくなっている

【中学校】



中学校で全国平均の-5%に達しない都道府県がない教科は初めて

◆ 全国平均から-5%に達しない都道府県数の推移

【小学校】

| | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
|------|-----|-----|-----|-----|
| 19年度 | 0 | 1 | 2 | 1 |
| 21年度 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 25年度 | 0 | 0 | 0 | 0 |

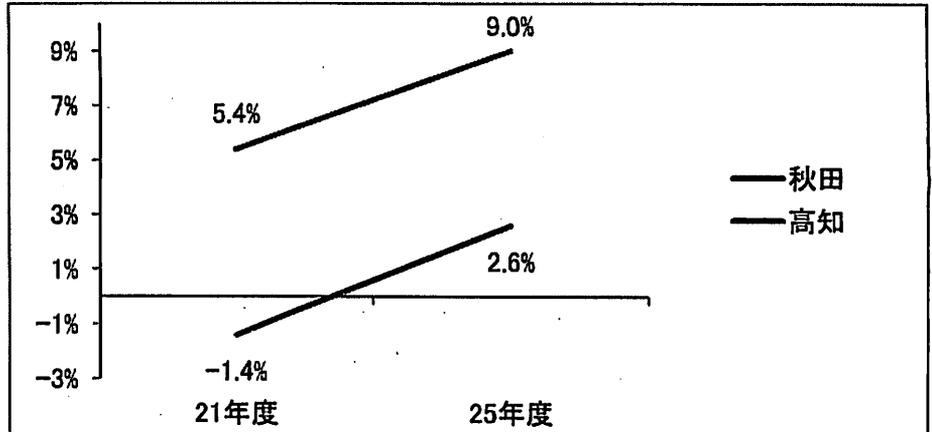
【中学校】

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|------|-----|-----|-----|-----|
| 19年度 | 1 | 3 | 2 | 3 |
| 21年度 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| 25年度 | 1 | 0 | 1 | 2 |

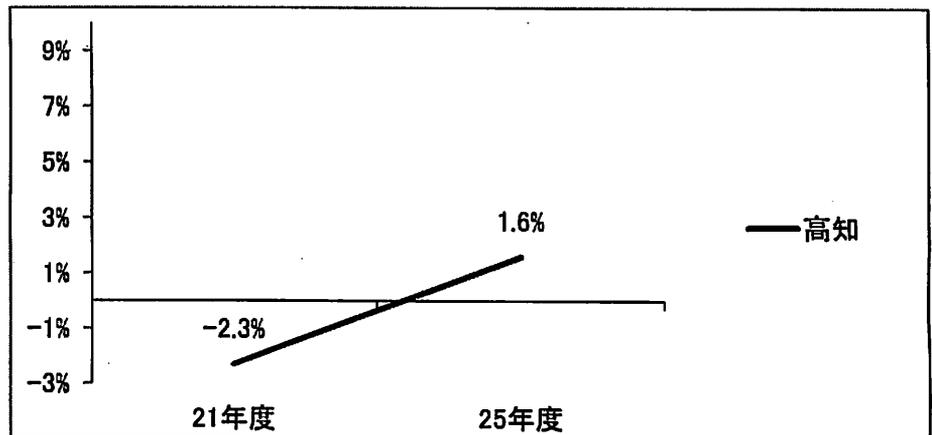
各都道府県の状況の例

「各都道府県の平均正答率」と「全国（公立）の平均正答率」との差（％）が
21年度から25年度で、3ポイント以上改善した都道府県

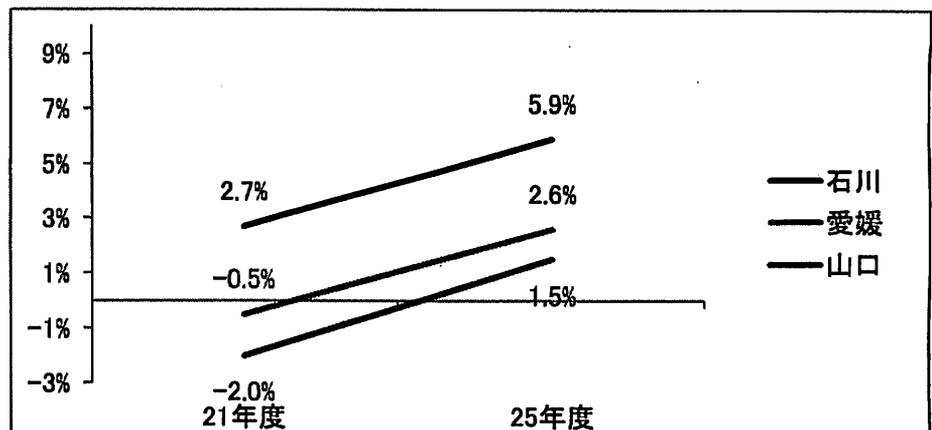
小学校 国語A



小学校 算数A



小学校 算数B



都道府県の例（高知県）

高知県の平均正答率について、全国平均（公立）との差を見ると、着実に改善してきている。

（平成19～21年度）

（平成25年度）

小学校 ほとんどの教科で全国平均以下

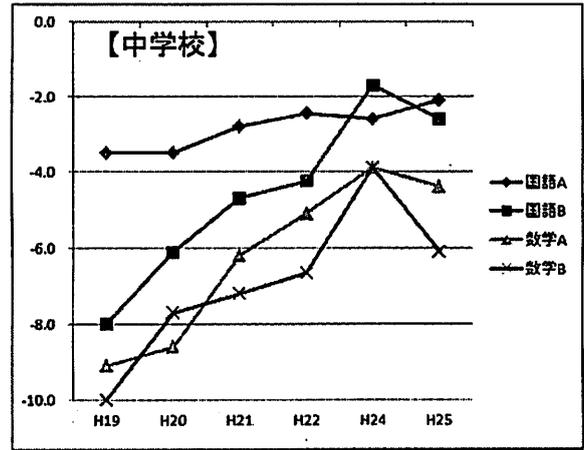
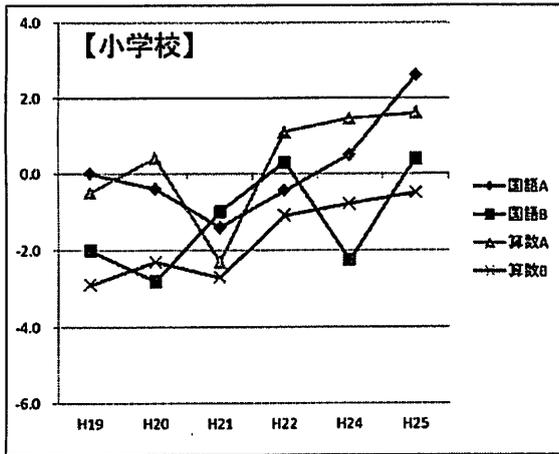
3教科で全国平均を上回る（特に国語Aは全国的に見ても高い）

中学校 全国平均を大きく下回る（3教科が-8%以下）

全国平均との差が大きく改善（-8%以下だった3教科は、それぞれ4~5%上昇）

（高知県の平均正答率と全国平均の差の推移）

※平成22年度・24年度は抽出調査のため誤差±1%程度の精度であり、参考値。

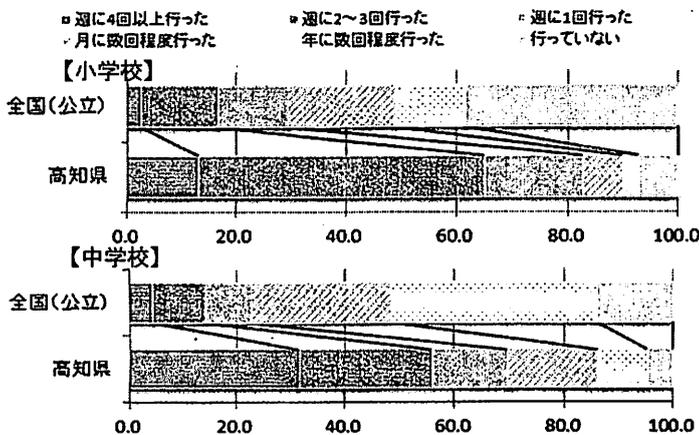


高知県では、次のような学力向上に向けた取組を進めており、その成果が着実に表れていると考えられる。

＜高知県の取組＞

- 授業や家庭学習で活用できる教材（単元テスト・学習シート）の作成・配布
- 放課後対策を充実し、補充学習を実施
- 高知県版学力調査の実施（小4・5、中1・2）による授業改善等の効果の検証

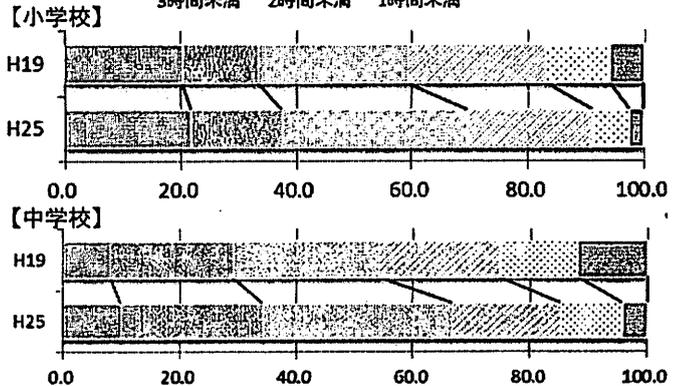
放課後を活用した補充学習を行っている学校の割合が全国に比べて多い



児童生徒の平日1日当たりの学習時間が増加

（高知県の児童生徒の状況）

□ 3時間以上
 ▨ 3時間未満
 ▩ 2時間以上
 ▧ 2時間未満
 ▦ 1時間以上
 ▥ 1時間未満
 ▤ 30分以上
 ▣ 30分未満
 ▢ 全くない



教科に関する調査結果

● 今年度の調査問題の主な特徴

「4年間のまとめ」(※)で指摘した課題等、これまでの調査で見られた課題についての改善状況を把握する観点からの問題を出題

※ 国立教育政策研究所において、平成19～22年度の4回の調査結果を分析して、成果と課題を整理した報告書

● 調査結果の概略

- これまでの調査で見られた課題について、依然として課題が見られるものがある。
- 一方、今回の調査を見る限り、改善状況が見られたものがあるが、これらについては引き続き注視が必要。

| | | 依然として課題が見られるもの | 改善状況が見られたが、引き続き注視が必要なもの |
|-----|--|---|---|
| 小学校 | 国語 【A問題】 平均正答数:11.3問/18問 平均正答率:62.9% 【B問題】 平均正答数:5.0問/10問 平均正答率:49.6% | 複数の内容を含む文の中の語句の役割や語句相互の関係を理解すること (接続語を使って1文を2文に分けて書く) 設問 【A3二(1)】(23.6%) 調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと (リーフレットの編集に当たり、編集会議での意見を受け、該当する資料から必要となる複数の内容を取り上げて、自分の考えを具体的に書く設問 【B2三】(17.9%)) | ことわざの意味を理解すること (「石の上にも三年」の意味として適切なものを選択する設問 【A2一】(71.3%)) |
| | 算数 【A問題】 平均正答数:14.7問/19問 平均正答率:77.3% 【B問題】 平均正答数:7.6問/13問 平均正答率:58.6% | 乗法や除法の意味を理解すること (2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ設問 【A4】(50.2%)) | 求積に必要な情報(図形の長さ・性質)を取り出して面積を求めること (台形の面積を求める式と答えを書く設問 【A5(3)】(73.5%)) |
| 中学校 | 国語 【A問題】 平均正答数:24.6問/32問 平均正答率:76.8% 【B問題】 平均正答数:6.1問/9問 平均正答率:68.0% | 説明的な文章について、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと (新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問 【B3一】(61.6%)) | 必要となる情報を取り出し、関係付けて読むこと (市民センターの催し物案内を読み、前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座を選択する設問 【A4二】(70.6%)) |
| | 数学 【A問題】 平均正答数:23.1問/36問 平均正答率:64.3% 【B問題】 平均正答数:6.8問/16問 平均正答率:42.4% | 一定の事柄が成り立つ理由や予想した事柄を数学的な表現を用いて説明すること (安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する設問 【B1(3)】(24.7%)) (2けたの自然数と、その数の十の位と一の位を入れかえた数の和を予想し、説明する設問 【B2(2)】(39.3%)) | 具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること (ノートと鉛筆の値段を求めるための連立二元一次方程式をつくる設問 【A3(3)】(83.1%)) |

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果

- ◆児童生徒の状況や学校の指導方法等をきめ細かく把握・分析するため、本年度は、新規項目を追加して実施。
- ◆今後、「教科に関する調査結果」との関係等を分析し、教育施策や指導方法の改善・充実に活用。（教科とのクロス集計等は12月公表予定）

●授業の中で分からないことがあったとき、小学生の約5%、中学生の約9%が「そのままにしておく」と回答。

・授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか（新規項目）

| | 小学生 | 中学生 |
|-------------|-------|-------|
| 先生に尋ねる | 25.8% | 24.8% |
| （その場で） | 15.9% | 11.9% |
| （授業が終わってから） | 9.9% | 12.9% |
| 友達に尋ねる | 31.8% | 41.5% |
| 家の人に尋ねる | 23.9% | 7.0% |
| 自分で調べる | 11.8% | 16.0% |
| そのままにしておく | 5.4% | 8.8% |

●家庭学習の定着が着実に進んでいる。

- 家で授業の復習をしている小学生・中学生に、増加傾向がうかがえる。
 - ・小学生（H19: 40.3% → H25: 51.5%）
 - ・中学生（H19: 39.5% → H25: 48.8%）
- 家庭学習の課題（宿題）を与えた学校に、若干の増加傾向がうかがえる。
 - ・小学校（国語 H19: 97.0% → H25: 99.5%、算数 H19: 97.5% → H25: 99.5%）
 - ・中学校（国語 H19: 84.4% → H25: 89.7%、数学 H19: 88.8% → H25: 92.8%）

●比較的多くの小学生・中学生が早期に英語を学び始めている。

○児童生徒が、学校の授業や英会話教室で英語を学び始めた時期（新規項目）

| | 小学校入学前 | 小1・小2 | 小3・小4 | 小5・小6 | 中1以降 |
|-----|--------|-------|-------|-------|-------|
| 小学生 | 17.9% | 23.9% | 25.0% | 32.8% | — |
| 中学生 | 11.2% | 11.8% | 18.6% | 38.4% | 19.8% |

○英語の学習が好きと回答している小学生は約76%、中学生は約53%である。（新規項目）

●地域による学校支援活動が進展し、効果を発揮している。

- 「保護者や地域の人が学校の教育活動等に参加してくれる」と回答している学校が、増加傾向
 - ・小学校（H21: 73.0% → H25: 80.7%）
 - ・中学校（H21: 54.4% → H25: 64.4%）
- 約9割の学校が、「保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があった」と回答（新規項目）
 - ・小学校（約95%）
 - ・中学校（約87%）